

中学生・高校生の男女交際と性的衝動との関係について

—横浜地域での調査をもとにして—

岡田 守弘*, 大草 正信**, 高安 睦美***

A study of the relation between datings and sexual urge by teenagers.

Morihiro OKADA, Masanobu OHKUSA, Mutsumi TAKAYASU

要約

近年の中学生・高校生の1対1の男女交際・性意識・性行動の実態とその背後にある要因との関連を明らかにすることを本研究の目的として、横浜市内公立中学校22校、横浜地域の高等学校11校に在籍する中学生・高校生を対象に質問紙調査を実施した。実施時期は1995年11月、回収数は8420部、特定の学校による分布の偏りを避けるために5038人を抽出して分析した。

結果は、次の通りである。

- (1)1対1男女交際の経験率は学年を追って高くなり、高校3年女子では30%を超える。キス経験率は中学3年女子で2割を超え、性交経験率は高校2年女子で2割を超え、女子の性に関する経験率が男子を上回っている。
- (2)性的衝動には「心理愛情的」と「心理生理的」の次元があり、若者文化許容には「制止」と「風潮」の次元があり、性的衝動の高さと若者文化許容度の高さが男女交際・性行動を積極的にする。
- (3)中学生・高校生は同世代の愛し合っている者同士のキスや性交に対する容認率は高く、1対1の男女交際や性経験が中学生・高校生にとって「あたりまえ化」し、「日常化」しているが、一部の突出した部分に幻惑されずに彼らのけじめ感覚を理解することが大切である。

Summary

This study was aimed at investigation about datings and sexual behaviors of recent junior high school and high school students, and exploration into the relation between their

* 心理学教室

** 横浜市養護教育総合センター

*** 横浜国立大学大綱中学校

behaviors and the factors hidden behind. The survey was conducted through questionnaires in 22 public junior high schools in Yokohama City, and 11 high schools around Yokohama City. 8420 students answered the questionnaires in November 1995. 5038 questionnaires were sampled for analysis.

Results are as follows;

- 1) Dating rate increases as the grade goes up. Dating rate of the third year female students is over 30%. The number of students who have experienced kissing is over 20% in the third year female students of junior high schools. The number of female students who have experienced sexual intercourse surpassed 20% in the second grade in high school. In every grade female students 'sex experiencing rate is higher than boys'.
- 2) Two dimensions were found in sexual urge. They are 'psycho-affectional' and 'psychophysiological' dimensions. And permissiveness toward youth culture included dimensions of 'inhibition' and 'fashion'. The ones who showed high sexual urge and high permissiveness are comparatively active in datings and sexual behaviors.
- 3) Junior high school and high school students tend to think it's natural to kiss or have sex, if they love each other. Dating and having sex have become a part of every day life and nothing special for junior high and high school students. And it's important to understand that most of them have their own standards of behaviors. The number of students who show excessive behaviors are quite limited.

I. 問題

1. 近年の中学生・高校生の性的衝動

性行動の発達や性役割の獲得過程の研究が、思春期発達の様相を解明する鍵となる重要な課題であるとされている。第二性徴の発現が人格発達にどのように機能しているかについての研究は1970年代から1980年代にかけて盛んに行われ (Whisnant, L., & Zegans, L., 1975; Koff, E. & Rierdan, J. & Silverstone, E., 1978; Rierdan, J. & Koff, E., 1980; Logan, D.D. & Calder, J.A. & Cohen, B.L., 1980; 齊藤, 1985; 泉, 1987), 1990年代になると、特に米国では10代の妊娠・人工妊娠中絶・出産といった差し迫った課題を解決するための研究が進められている。

青少年の性意識・性行動を包括的に調査したものとしては、英国の Schofield, M. (1968) による研究がある。それによると、青少年が早い時期に性的経験に走るか走らないかを決定するには2つの態度次元があり、「10代のエトノセントリズム (teenage ethnocentrism)」と「拘束性 (restrictiveness)」であるとされている。エトノセントリズムは自分の属しているグループに賛成し、他のグループに反対することであり、拘束性は厳しい道徳律を重んじ、自分を束縛することである。そして、実態調査によって、早く性的経験に走る少年少女はエトノセントリックであると同時に、反拘束的 (許容的) であることが認められたと報告されている。

これらの諸研究では、性行動は性的衝動によって解発されるという生物・心理的な前提

に従って、性に関わる問題は性的衝動とそれを抑制する社会規範やモラルや常識性との拮抗から論じられることが多い。しかも、性的衝動の抑圧が解放され、性に関わる規範がゆるやかになっている現代では、性的衝動が抑制されずに短絡的に表出されるとして問題視されがちである。

ある中学校の学級担任が少し授業に遅れて教室に行くと、生徒たちが何か黒板に標的のようなものを描いて、それに順番に消しゴムを投げてあてっこしていた。それを学級の男子も女子も実に楽しそうにカラカラと笑いながら見ているのである。なんとその標的は女性の陰部の詳細なるスケッチだったのである。「性」に対する余りにもあっけらかんとした後ろめたさのない感覚にたじろぎを覚えたという。

また、大人達が口にするのも恥ずかしいと感じるような言葉を平気で日常会話に登場させるのも、男女を問わず共通している。男子の同級生の前で平気で「今日私、生理なの!」と大きい声で宣言する女子など珍しくはなく、「性への恥ずかしさ」といった感性は全く薄くなってしまったのかと思わせるほどである。

しかし、あっけらかんとした性行動を繰り返したり、援助交際と言われるようなことを平然としたりする若者が増えている一方で、次のような事例もある。

中学校で、性に関わる授業で出産場面のビデオを見せたところ、興味本位に騒ぐ者、人間性の根元を見たと感激する者に混じって、「こんなものは見たくなかった、こんなものをなぜ教科で見せるんですか」と抗議し、さめざめと泣く者がいたというのである。

上述のエピソードは、明らかに一世代前とは異質であるし、10年前の中学生のとも違う。また、性に関わる問題は一部の「進んだ」生徒たちだけのものでもなさそうである。しかし、彼らの感性や行動に対して、大衆紙や青少年の性に関する多くの論評等にあるように「歪んだ性意識」「モラルなき性行動」「退廃文化に汚染されて、性モラルの荒廃した青少年」と規定できるほど、中学生・高校生の性に対する態度や意識は単純ではないと思われる。

2. 中学生・高校生の性的体験の動向

東京都幼・小・中・高性教育研究会が1996年1月に行った調査（以下、東京都調査という）によれば、中学生・高校生の性交経験率は中学3年女子で5.3%，高校3年女子で34.0%であると報告されている。この調査は1981年から3年ごとに継続的に行われていて、中学生・高校生のセックス経験率は年々増加の一途をたどっているとのことである。

わが国で、青少年の性に関する調査研究が盛んに行われるようになったのは1970年代になってからのことである（福富，1983）。先駆的な役割を果たしたのは、1971年に総理府青少年対策本部の行った「青少年の性に関する意識調査」で、その後、日本性教育協会が総理府に委託される形で全国規模の性行動実態調査を継続的に行っている。1974年から6年おきに行われているこの調査は、1994年発表のもので4回目となる。第4回の報告書「青少年の性行動－わが国の中学生・高校生・大学生の調査報告」では、性行動の低年

齢化、高校生と大学生の女子の性行動の活発化が指摘されている。しかし、女子の性経験率が伸びているとはいえ、デートや性交の時に誘うのは圧倒的に男子に多く、男性が能動的で女性が受動的という伝統的パターンが依然として存在しているとともに、青少年にとって性というものが特別のものとしてことさら隠すべきものではなく、いわば「性の日常化」と呼べるような現象となっていると指摘されている。

横浜地域では、1989年に横浜市教育委員会性教育研究協議会が市内公立小・中学生5400人を対象に性に関する調査を行い、また、中濱は1994年に東京都調査を基盤にして横浜市内の中学生1300人を対象に性行動の実態・意識調査を行い、東京都調査との比較を試みている。

3. 研究の目的

以上の先行研究や調査研究での提言を見ると、中学生・高校生の性的経験率は今後も上昇する一方、性に関わる問題の発現の低年齢化を予測するものが多い。そして、予測通りに増え続けるとともに、中学生・高校生の性経験の仕方や表面に現れる現象も変動している。しかし、その変動の背景要因の一つである性的衝動そのものの様相についての詳細な検討は十分になされていない状況である。そこで、本研究では、男女交際および性経験の実態を把握するとともに、性経験に関係する性的衝動と若者文化許容度とに焦点をあて、性行動や性に対する意識との関係を調べることにした。

II. 方法

1. 調査の目的

横浜市地域の中学校・高等学校に在籍する中学生・高校生を対象として、男女交際と性意識・性行動の実態とそれらの背後にある要因との関連をとらえるために、質問紙による調査を実施した。

この報告では、中学生・高校生の男女交際・若者文化への許容度・性行動・性意識の実態を明らかにするとともに、データから構成される性的衝動尺度と若者文化許容度との関連について検討する。

2. 調査項目の構成

(1)基本的属性：学年・男女別

(2)男女交際・性意識・性行動に関する変数群

A. 男女交際：交際率、交際行動、交際への自己評価、親の関わり方への認知、交際をしていない場合の交際に対する態度

B. 性意識・性行動：この領域については、発達段階を考慮して中学生と高校生とでは質問項目を別々に作成した。中学生用ではキス欲、キス経験、キス観、性交観であり、高校生用ではキス経験、ベッティング経験、性交経験、性交の動機と避妊、性交観である。

(3)性意識・性行動に影響すると思われる変数群：身体成熟度（身長・体重の自己評価）、

性的衝動、若者文化許容度（同世代への許容度、自分への許容度）、性役割実現度、価値観

- (4)その他の変数群：性的衝動への対処、性に関する不安や悩み、性情報の入手経路と理解度

3. 調査実施の手続き

- (1)調査対象：横浜市内公立中学校22校に在籍する中学1, 2, 3年生と横浜地域内の高等学校11校に在籍する高校1, 2, 3年生を対象とした。中学校は横浜市18行政区の内、13行政区の中から1～3校ずつを抽出したので、22校は市内ほぼ全域にわたっている。高等学校は、これらの中学生が進学する横浜市を中心に、神奈川県南部も含めてやや広域にわたっている。
- (2)実施方法：授業時間に調査用紙を配布し、教室で一斉に実施した。実施前後の指導、実施中の監督は、実施要綱を作成した上で当該校の教員が実施するよう依頼した。生徒の回答に対してプライバシーを保護するために、あらかじめ用意した調査用紙回収用封筒に回答記入した後直ちに各自で封筒に入れさせてから回収した。なお、学校の事情によって、調査用紙と回収用封筒とを自宅に持ち帰らせて回答記入させた学級もあった。
- (3)調査期間：1995年11月1日～15日
- (4)調査用紙配布数：中学校6100部、高等学校3234部、合計9334部（予備を含む）
- (5)回収数：中学校5813部、高等学校2607部、合計8420部
- (6)有効回収数：中学校5171部、高等学校2448部、合計7619部（有効回収率90.5%）

4. 分析対象数

学校によって調査実施した学級数に差があったので、特定の学校による分布の偏りを取り除くために分析対象の抽出を行った。即ち、1校での調査実施学級数が6学級を越えた場合には、各学年から2学級を抜き出すこととした。その結果、分析対象数は表1の通りとなった。

表1 分析対象の構成

	中学生				高校生				合計
	1年生	2年生	3年生	小計	1年生	2年生	3年生	小計	
男子	510	572	553	1635	434	347	338	1119	2754
	51.3%	52.0	51.7	51.7	59.8	59.1	56.1	58.4	54.2
女子	484	527	517	1528	292	240	264	796	2324
	48.7	48.0	48.3	48.3	40.2	40.9	43.9	41.6	45.8
合計	994	1099	1070	3163	726	587	602	1915	5078
	31.4	34.7	33.8		37.9	30.7	31.4		

Ⅲ. 結果と考察

(1) 男女交際の実態

近年の中学生・高校生は、「異性の友達」「異性の友人」「親しい異性」「ボーイフレンド（ガールフレンド）」「恋人」「カレシ（カノジョ）」など、交際相手に対して実に様々な呼び方をしている。

日本性教育協会（1994）の調査では「特に仲の良い異性の友人」あるいは「恋人」がいるかを聞いている。東京都調査（1993）では、中学生に対して「異性の友達」や別の項目では「1対1の交際をしている特定の異性」を、高校生に対しては「異性の友人の有無」を質問し、その選択肢に「グループ交際」「恋人ではないが親しい異性」「恋人と言える異性の友人」を用いている。

本研究の予備調査段階で、「交際をしている異性の友達」という聞き方をしたが、実施の時に高校生から「この言い方はおかしい」という意見が出された。その後、高校生を対象とした面接調査では、彼らの言葉の使い方と概念について詳しく聞くことができた。

それによると、「ボーイフレンド（ガールフレンド）」「恋人」という言い方はほとんどしない、1対1でつきあっている相手は「カレシ」「カノジョ」と表現する、そういう相手には「友達」「友人」とは言わない、グループ交際はまだ「友達」「友人」の範囲であるといったように、友達づきあいの水準が彼らの意識の上で明確に決められているのである。そこで、本調査では、「異性の友人」と「1対1の交際」をはっきりと分けた上で、さらに1対1の交際の経験についても調べることにした。表2、3は男女別・学年別に男女交際の様相をまとめたものである。

表2 男子の女子との交際の状況（N = 2754）

質問項目	中学生			高校生			合計
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
いない	294 57.6%	337 58.9	347 62.7	209 48.2	131 37.8	131 38.8	1449 52.6
異性の友達は何人在るが、特に交際していない	155 30.4	162 28.3	101 18.3	98 22.6	92 26.5	73 21.6	681 24.7
以前は、1対1で交際している異性がいたが、今はいない	31 6.1	35 6.1	61 11.0	76 17.5	66 19.0	58 17.2	327 11.9
現在、1対1で交際している異性がいる	30 5.9	38 6.6	44 8.0	51 11.8	58 16.7	76 22.5	297 10.8

表3 女子の男子との交際の状況（N = 2324）

質問項目	中学生			高校生			合計
	1年	2年	3年	1年	2年	3年	
いない	251 51.9%	239 45.4	249 48.2	92 31.5	76 31.7	73 27.7	980 42.2
異性の友達は何人在るが特に交際していない	159 32.9	171 32.4	133 25.7	77 26.4	36 15.0	40 15.2	616 26.5
以前は、1対1で交際している異性がいたが、今はいない	34 7.0	54 10.2	77 14.9	55 18.8	58 24.2	63 23.9	341 14.7
現在、1対1で交際している異性がいる	40 8.3	63 12.0	58 11.2	68 23.3	70 29.2	88 33.3	387 16.7

ここでは、1対1の交際をしていないし異性の友人もいない群について見てみることにする。

中学生では、男子の6割(59.8%)、女子の5割(48.4%)がこれに当たる。これらの男子の約半数(44.3%)は「交際したい」気持ちを持っており、女子では、「交際したい」と回答した者が約7割(64.7%)、「交際したいと思わない」が約3割(35.3%)である。交際したいと思わない理由として、男女とも「やりたいことがほかにある」(男子で43.6%、女子で49.1%)、「まだ早い」(男子で33.5%、女子で37.8%)、「同性の友達だけで十分」(男子で25.2%、女子で31.5%)が多かった。交際したいけれどもできない理由としては、男女ともに「言い出す勇気がない」(男子で52.1%、女子で57.7%)が最も多く、ついで「出会うチャンスがない」(男子で43.0%、女子で33.6%)、「いいと思う相手がない」(男子で31.4%、女子で39.9%)などの現実的な理由が続く(表4, 5)。

表4 交際したくない理由

	全く 関心が ない	まだ早い と思っ ている	今は勉 強が大 切	他にや りたい ことが ある	同性の 友達で 十分	関わり を持つ のが面 倒	合計
中学生 男子	131 26.8%	164 33.5	97 19.8	213 43.6	123 25.2	119 24.3	489 68.8
女子	45 20.3	84 37.8	38 17.1	109 49.1	70 31.5	41 18.5	222 31.2
合計	176 24.8	248 34.9	135 19.0	322 45.3	193 27.1	160 22.5	711 100.0
高校生 男子	25 22.7	23 20.9	22 20.0	57 51.8	22 20.0	45 40.9	110 74.8
女子	7 18.9	6 16.2	5 13.5	21 56.8	6 16.2	21 56.8	37 25.2
合計	32 21.8	29 19.7	27 18.4	78 53.1	28 19.0	66 44.9	147 100.0

表5 交際したいけれどもできない理由

	出会う チャンスが ない	部活や 勉強で 時間が ない	いいと 思う相 手が いない	自分か ら言う 勇気が ない	つき合 って いく自 信が ない	勉強が 大事だ から我 慢する	合計
男子	156 43.0%	64 17.6	114 31.4	189 52.1	81 22.3	41 11.3	363 46.7
女子	139 33.6	66 15.9	165 39.9	239 57.7	86 20.8	33 8.0	414 53.3
合計	295 38.0	130 16.7	279 35.9	428 55.1	167 21.5	74 9.5	777 100.0
男子	155 52.9	59 20.1	115 39.2	122 41.6	64 21.8	20 6.8	293 62.1
女子	99 55.3	20 11.2	102 57.0	64 35.8	25 14.0	8 4.5	179 37.9
合計	254 53.8	79 16.7	217 46.0	186 39.4	89 18.9	28 5.9	472 100.0

いっぽう、高校生では男子のほぼ4割（42.1%）、女子の3割（30.3%）が交際をしていない。この内、「交際したいと思わない」と回答する者は中学生よりもかなり少なく、男子で2割強（25.1%）、女子で1割強（16.9%）であり、全体から見てもかなり少数派である。交際したいと思わない理由は、「やりたいことが他にある」（男子で51.8%、女子で56.8%）と「関わりを持つのが面倒くさい」（男子で40.9%、女子で56.8%）が多かった。交際したいけれどもできない理由として、「出会うチャンスがない」（男子で52.9%、女子で55.3%）「いいと思う相手がいない」（男子で39.2%、女子で57.0%）を多くあげており、「言い出す勇気がない」（男子で41.6%、女子で35.8%）は中学生に比べて少ない。

中学生・高校生ともに、「今は勉強が大切だから我慢している」といった禁欲的な理由を回答する者は非常に少ない（中学生で9.5%、高校生で5.9%）。

交際をしていない群の中でも、できれば交際をしたいという気持ちがあり、かつ現在交際をしていない理由として「出会うチャンスがない」「いいと思う相手がいない」を挙げている者は、条件が整えば1対1の男女交際を始める可能性を十分に持っており、その意味で交際予備群と考えて良いのかもしれない。

ところで、現在1対1の男女交際をしている者は、中学生男子で6.9%、女子で10.5%、高校生男子で16.5%、女子で28.4%である。先行研究の男女交際に関わる質問の表現が微妙に異なるので、正確な比較はできないが、東京都調査（1993）と中濱調査（1994）では、中学生の1対1の男女交際率はほぼ1割となっている。しかし、東京都調査（1966）では、中学生に対して「恋人といえる異性がいるか」と問い、これに回答している者は男子で5.9%、女子で8.2%であり、高校生には「特定の異性との1対1の交際」を尋ね、男子の25.8%、女子の31.9%から該当する回答を得ている。すなわち、本調査の結果は大都市圏の中学生・高校生の男女交際の実態を反映しているものと見なせよう。

さて、本調査では、現在交際中という者だけでなく、以前に1対1で交際したことがあるが今は別れてしまった者の動向についても調べている。現在交際中の者にこれを加えて、「1対1で男女交際をした経験のある者」の割合を見てみると、中学生で17.8%，高校生では41.1%に上る。さらに、学年別に見ると、中学1年生で13.5%，中学2年生17.3%，中学3年生で22.4%，高校1年生で34.3%，高校2年生で43.0%，高校3年生で47.3%である。高校生ともなると、半数近くの者が1対1の男女交際を経験していて、男女別に見るといずれの学年でも女子が男子を上回り、高校3年女子では57.2%が1対1交際経験者である。

中学生の段階では、交際を始めてもすぐに別れてしまって長続きしない傾向があると指摘されるが、ある時点での男女交際を捉えるのではなく、交際経験の有無という視点で見ていく方が妥当だと思われる。

1対1交際の経験がある者に、さらに前述の「現在は交際をしていないが、チャンスがあって、いい相手がいれば交際をしたい」と答えている予備群を加えると、おおざっぱな計算ではあるが、中学生の約3分の1、高校生の約3分の2は1対1交際に積極的であると想定される。中学生・高校生の1対1の男女交際は、もはや一部の生徒だけのものではないと見なす必要がある。

(2)性的衝動性尺度の構成

異性への接触欲やマスターベーションの経験といったことから性的衝動性を測るよりも、普段の生活のなかで経験するが、その起因するところが不確かで掴むことができにくく、浮遊するような気分を測るために図1に示す10項目を用意した。これら10項目への回答（ここ1ヶ月の間に経験した気分について、「しょっちゅうあった」から「全くなかった」までの5件法による評定）に対してクラスター分析（ウォード法）を行い、二つのクラスターに集約することができた。

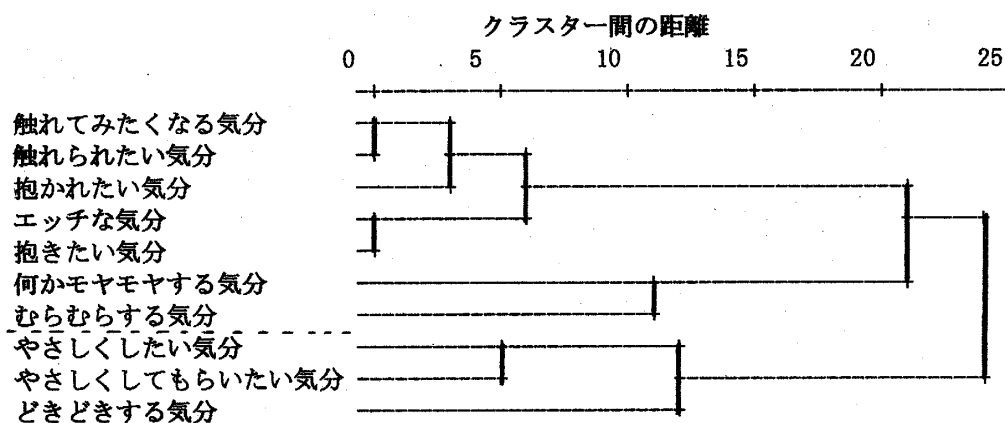


図1 性的衝動性のクラスター（ウォード法，デンドログラム）

なお、これら10項目について、校種別、男女別にクラスター分析を行なったところ同様の項目によって2つのクラスターに集約することができた。これら2つのクラスターに対して、下段の「やさしくしたい気分」などを「心理愛情的性衝動」と、上段の「触れてみたくなる気分」などを「心理生理的性衝動」と命名し、これらの項目への回答を加算することによって尺度を構成した（2つの尺度のクロンバックの α 係数は、それぞれ0.843と0.934であった）。これらは、Ausubel, D.P (1954) による性的欲求の2次元に対応するものと思われる。

(3)若者文化に対する許容度

若者の日常生活では比較的ありきたりな事象と思われるが、大人社会や教育の現場では問題視されがちな10項目（喫煙、万引き、違装、性産業への接近など）に対して、中学生・高校生はどういう感覚で受けとめているのか、どこまでを許容し、どこからは許せないものなのかを聞くことによって、彼らのけじめ感覚を探ることとした。表6は、同世代の人がそういうことをすることに対して「許せない」と回答した者の割合が高い項目から順に並べたものである。表7は、逆に、同世代の人がそういうことをしても「別にかまわない」と思うと回答した割合を順に示したものである。

表6 若者文化への非許容度：「許せない」と回答した者の割合（％）

中学生男子(N=1635)		中学生女子(N=1528)	
1. シンナー	64.5	1. シンナー	73.2
2. 万引き	50.8	2. 万引き	61.3
3. タバコ	46.4	3. ブルセラ	56.7
4. ブルセラ	39.8	4. タバコ	50.1
5. 改造バイク	37.2	5. 改造バイク	37.6
6. テレクラ	30.5	6. テレクラ	35.7
7. 夜たむろ	24.2	7. 夜たむろ	23.2
8. ボンタン	19.6	8. ボンタン	14.0
9. ピアス	19.4	9. ピアス	9.9
10. 髪染め	17.3	10. 髪染め	8.9

高校生男子(N=1119)		高校生女子(N=796)	
1. シンナー	59.9	1. シンナー	72.1
2. 万引き	39.9	2. 万引き	46.6
3. ブルセラ	30.0	3. ブルセラ	44.0
4. タバコ	23.0	4. タバコ	28.6
5. テレクラ	18.4	5. 改造バイク	18.1
6. 夜たむろ	18.2	6. テレクラ	18.0
7. 改造バイク	15.3	7. ボンタン	15.2
8. ボンタン	14.8	8. 夜たむろ	10.4
9. ピアス	10.2	9. 髪染め	0.8
10. 髪染め	8.3	10. ピアス	0.5

表7 若者文化への許容度：「別にかまわない」と回答した者の割合（％）

中学生男子(N=1635)		中学生女子(N=1528)	
1. 髪染め	48.8	1. ピアス	61.1
2. ピアス	44.5	2. 髪染め	60.4
3. ボンタン	39.6	3. ボンタン	45.7
4. 夜たむろ	36.8	4. 夜たむろ	32.7
5. 改造バイク	29.0	5. テレクラ	26.4
6. テレクラ	28.4	6. 改造バイク	25.2
7. タバコ	23.8	7. タバコ	19.4
8. ブルセラ	22.4	8. ブルセラ	14.3
9. 万引き	15.9	9. シンナー	9.0
10. シンナー	13.7	10. 万引き	8.6

高校生男子(N=1119)		高校生女子(N=796)	
1. 髪染め	71.6	1. ピアス	91.8
2. ピアス	69.4	2. 髪染め	87.9
3. 改造バイク	59.0	3. ボンタン	56.5
4. ボンタン	56.6	4. 夜たむろ	52.5
5. 夜たむろ	55.6	5. 改造バイク	48.6
6. タバコ	55.0	6. タバコ	40.3
7. テレクラ	46.5	7. テレクラ	39.3
8. ブルセラ	35.2	8. ブルセラ	30.7
9. 万引き	28.1	9. 万引き	18.1
10. シンナー	22.3	10. シンナー	10.8

この10項目に対して同世代の者が行なう場合に対する評価について因子分析（主因子解，VARIMAX回転）した結果が，表8である。

表8 若者文化許容度の因子（VARIMAX回転後の因子負荷量）

質問項目	第1因子	第2因子	共通性	アルファ係数
シンナーを吸う	.711	.119	.421	.827
ブルセラショップに下着を売る	.675	.244	.511	
テレクラに電話をかける	.655	.369	.553	
万引きする	.609	.221	.367	
タバコを吸う	.602	.369	.458	
髪を染める	.221	.845	.618	.825
ピアスをする	.196	.822	.589	
ボンタンなどめだつ服装をする	.310	.610	.425	
夜遅くまで公園やコンビニでたむろする	.342	.515	.355	
因子寄与	2.421	2.419		
因子寄与率	26.9	26.9		

第1因子は刑法に触れる内容を含んでおり、犯罪に関わりたくないと言う意味で「制止（犯罪性）因子」と命名した。近年の中学生・高校生が用いる言葉を使うと「ちょっとヤバイ事」ということになる。第2因子は、もっと日常的でおしゃれとかファッションの事柄のあり、時流に合わせるという意味あいがあるので「風潮（ファッション）因子」とした。これらは、Schofield (1968) の「拘束性」と「エトノセントリズム」に対応するものと思われる。

(4)性意識・性行動の実態

性意識・性行動については、発達段階を考慮して中学生と高校生とに別個の質問項目を用意したので、分けて結果を示すことにする。

1. 中学生の性意識・性行動

中学生への質問項目は、①キスに対する欲求（キス欲）として「異性とキスをしてみたいと思ったことがありますか」、②キス経験として「異性とキスしたことがありますか」、③キスに対する考え（キス観）として「中学生がキスすることについてどう思いますか」、④性交に対する考え（性交観）として「中学生が性交することについてどう思いますか」の4つである。

①キス欲では（表9）、各学年男女とも5から6割が「キスをしてみたいと思ったことがある」と回答している。1年生ではわずかに女子の方が多いが、2・3年生では逆に男子が上回っている程度である。キスに対する意識は、東京都調査でも日本性教育協会調査でも調べているが、質問の表現や選択肢の内容が異なるため、結果に大きな違いがある。日本性教育協会調査（1994）では、「性的な意味あいでもキスしたいと思ったことがありますか」と聞いており、中学生の男女ともに肯定した者が約30%である。東京都調査（1996）では質問の仕方は本調査と同じだが、選択肢に「何となく」「好きな人となら」「一度経験してみたい」など具体的な表現を入れているために、男女ともに7割前後がキス欲ありとなっている（男子の70.8%、女子の72.4%）。「異性とのキス」という言葉から生ずるイメージの如何によって回答の仕方が変わってくることが推測される。いずれにしても、男女に関わらず中学生の半数以上が異性とのキスに関心を持っていることに変わりはない。

表9 中学生のキス欲

		ある	ない	無回答	合計
男子	1年	242	257	11	510
		47.5%	50.4	2.2	31.2
	2年	337	225	10	572
		58.9	39.3	1.7	35.0
	3年	354	189	10	553
		64.0	34.2	1.8	33.8
合計		933	671	31	1635
		57.1	41.0	1.9	100.0
女子	1年	245	223	16	484
		50.6	46.1	3.3	31.7
	2年	302	207	18	527
		57.3	39.3	3.4	34.5
	3年	314	195	8	517
		60.7	37.7	1.5	33.8
合計		861	625	42	1528
		56.3	40.9	2.7	100.0

②キス経験では（表10）、1年生ですでに10%を越え、3年生女子では2割強となっていて、男女ともに2年生から3年生にかけて経験率が急激に上昇している。また、どの学年でも女子の経験率が男子のそれを大幅に上回っている。ここ数年の先行研究と比較したのが表11である。

表10 中学生のキス経験

	ある	ない	無回答	合計	
男子 1年	65	439	6	510	
	12.7%	86.1	1.2	31.2	
	2年	68	495	9	572
		11.9	86.5	1.6	35.0
	3年	90	455	8	553
		16.3	82.3	1.4	33.8
合計	223	1389	23	1635	
	13.6	85.0	1.4	100.0	
女子 1年	83	391	10	484	
	17.1	80.8	2.1	31.7	
	2年	97	414	16	527
		18.4	78.6	3.0	34.5
	3年	133	381	3	517
		25.7	73.7	.6	33.8
合計	313	1186	29	1528	
	20.5	77.6	1.9	100.0	

表11 中学生のキス経験率(%)の推移

実施年	東京都調査 1993	性教育協会 1994	中濱調査 1994	東京都調査 1996	本調査 1995
男子1年生	6.4%	4.5	6.6	7.5	12.7
2年生	7.4	5.7	10.0	13.1	11.9
3年生	11.3	11.6	17.9	22.0	16.3
女子1年生	5.8	5.8	8.7	12.2	17.1
2年生	9.7	6.5	8.1	15.4	18.4
3年生	14.7	13.4	18.5	23.2	25.7

調査ごとに、質問の仕方・表現と選択肢の内容・調査実施方法に違いがあるので単純に比較できないが、おおざっぱに見てもキス経験がこの2、3年の間で急速に早期化していることがわかる。特に、女子の経験率の上昇が目立ち、女子の性経験の早期化は近年の特徴として指摘されている（日本性教育協会）が、今回の調査でもそれを裏付ける結果となっている。

表12, 13は、同世代の中学生がキスや性交をすることに対する意見を5段階で回答させた結果である。同世代の性行動という限定付きで中学生の考えを聞いたものは、日本性教育協会の調査や東京都調査ではなく、本研究独自のものである。

③キス観では、「しても良い」「愛情が深まればしても良い」を合わせると、1年生男子を除いて、すべてにおいて半数を超え、2・3年生女子では約7割となっている（表12）。逆に、「すべきでない」「愛情が深まってもできるだけしない方がよい」とを合わせても全体では8%と少数派であり、どの学年でも男子よりも女子の方がキスに対する許容度が高い。自分が実際にするかどうかは別にして、とりあえず「中学生がキスをする」ことに対して抵抗感なり、嫌悪感がある者は非常に少なくなっている。

④性交観では、キス観とは反対に女子よりも男子において許容する傾向がある。性交に対して「すべきでない」と「愛情が深まってもできるだけしない方がよい」とを合わせると、男子全体では30.7%, 女子全体では36.4%である（表13）。キスでは7割近くが容認していた2・3年生女子でも、性交に対しては約3割しか容認していない。男子の方が心理生理的性衝動と性交観が直接関連している度合いが強いので、性交への容認率の高さはそこに起因していると考えられる。一方、女子の場合では、妊娠への危険性に対する敏感さ、性的経験のない段階での性交に対するイメージの如何、生理的な嫌悪感と好奇心・性的興味との拮抗などが性交観と関与すると考えられるので、どの要因が性交観と直接関連するのかについて、さらに詳しく調査する必要がある。

表12 中学生のキス観

		すべきでない	愛情が深まってもすべきでない	どちらともいえない	愛情が深まればしてもよい	してもよい	無回答	合計
男子	1年	41 8.0%	26 5.1	171 33.5	89 17.5	158 31.0	25 4.9	510 31.2
	2年	31 5.4	27 4.7	164 28.7	136 23.8	199 34.8	15 2.6	572 35.0
	3年	19 3.4	18 3.3	163 29.5	136 24.6	195 35.3	22 4.0	553 33.8
	合計	91 5.6	71 4.3	498 30.5	361 22.1	552 33.8	62 3.8	1635 100.0
	1年	26 5.4	18 3.7	143 29.5	121 25.0	150 31.0	26 5.4	484 31.7
	2年	9 1.7	21 4.0	121 23.0	145 27.5	210 39.8	21 4.0	527 34.5
女子	3年	10 1.9	7 1.4	118 22.8	154 29.8	209 40.4	19 3.7	517 33.8
	合計	45 2.9	46 3.0	382 25.0	420 27.5	569 37.2	66 4.3	1528 100.0

表13 中学生の性交観

		すべきでない	愛情が深まってもすべきでない	どちらともいえない	愛情が深まればしてもよい	してもよい	無回答	合計
男子	1年	157 30.8%	32 6.3	139 27.3	56 11.0	88 17.3	38 7.5	510 31.2
	2年	128 22.4	50 8.7	185 32.3	89 15.6	100 17.5	20 3.5	572 35.0
	3年	94 17.0	40 7.2	187 33.8	88 15.9	121 21.9	23 4.2	553 33.8
	合計	379 23.2	122 7.5	511 31.3	233 14.3	309 18.9	81 5.0	1635 100.0
	1年	164 33.9	63 13.0	129 26.7	45 9.3	46 9.5	37 7.6	484 31.7
	2年	121 23.0	66 12.5	146 27.7	109 20.7	62 11.8	23 4.4	527 34.5
女子	3年	90 17.4	53 10.3	155 30.0	111 21.5	87 16.8	21 4.1	517 33.8
	合計	375 24.5	182 11.9	430 28.1	265 17.3	195 12.8	81 5.3	1528 100.0

⑤中学生のキスや性交に対するけじめ感覚の位置を検討するために、若者文化への非許容度との対応を調べた。中学生がするキスと性交に対して「すべきでない」「愛情が深まってもできるだけしない方がよい」と回答した者を合わせた割合を非許容度と見なして、先の表6の「同世代の人がするのは許せない」とする順位の中に挿入してみた（表14）。

表14 若者文化およびキス・性交への非許容度：

「許せない」あるいは「すべきでない」と回答した者の割合（％）

中学生男子 (N=1635)		中学生女子 (N=1528)	
1. シンナー	64.5	1. シンナー	73.2
2. 万引き	50.8	2. 万引き	61.3
3. タバコ	46.4	3. ブルセラ	56.7
4. ブルセラ	39.8	4. タバコ	50.1
性交	30.7	性交	36.4
5. 改造バイク	37.2	5. 改造バイク	37.6
6. テレクラ	30.5	6. テレクラ	35.7
7. 夜たむろ	24.2	7. 夜たむろ	23.2
8. ボンタン	19.6	8. ボンタン	14.0
9. ピアス	19.4	9. ピアス	9.9
10. 髪染め	17.3	10. 髪染め	8.9
キス	9.9	キス	5.9

中学生のするキスは、男女ともに、「ピアス」や「髪染め」よりも容認でき、いわゆる「フツー」のことであり、驚くようなことではないのであろう。これに対して、中学生がする性交は、「テレクラ」に電話することよりも許せないことと評価されている。

「セックス」よりももっと許せないものは、法的に禁じられている事柄であるが、その中に「ブルセラショップに下着を売る」がある。「ブルセラ」は愛している人との「セックス」よりも容認できず、「ブルセラは許せない」とする回答は、男子では39.8%であるが、女子では56.7%である。

この「キス」「性交」「ブルセラ」の3つに対する回答分布の違いから、中学生の抱くけじめ感覚の様相が見えてくるようである。

2. 高校生の性意識・性行動

高校生への質問項目は、キス・ベッティング・性交についての経験の有無、性交動機、初交時の避妊、性交観である。

①性経験を、「性経験がない」、「キスあるいはベッティングまで経験した」、「性交まで経験」の3段階に分けて集計した（表15）。

表15 高校生の性経験率 (N = 1920)

		経験 なし	キスマ で経験	性交ま で経験	無回答	合計
1年	男	292 67.3%	73 16.8	31 7.1	38 8.8	434 22.7
	女	182 62.3	51 17.5	36 12.3	23 7.9	292 15.2
2年	男	201 57.9	68 19.6	56 16.1	22 6.3	347 18.1
	女	103 42.9	68 28.3	54 22.5	15 6.3	240 12.5
3年	男	163 48.2	56 16.6	87 25.7	32 9.5	338 17.7
	女	105 39.8	49 18.6	93 35.2	17 6.4	264 13.8
合計		1046 54.6	365 19.1	357 18.6	147 7.7	1915 100.0

高校生の性交経験について、東京都調査（1993、1996）と日本性教育協会調査（1994）と比較したのが表16である。

表16 高校生の性交経験率（％）の推移

実施年	東京都調査 1993	性教育協会 1994	東京都調査 1996	本調査 1995
男子1年生	15.1%	8.1	12.9	7.1
2年生	24.0	18.8	16.5	16.1
3年生	27.3	23.9	28.6	25.7
女子1年生	9.2	8.6	16.6	12.3
2年生	18.0	21.0	28.1	22.5
3年生	22.3	24.7	34.0	35.2

男子の性交経験率は横ばい状況であるが、女子ではこの2、3年の間に性交経験率が伸び、特に、高校3年女子では、1996年の東京都調査と同様に30%を超えている。また、どの学年でも女子の経験率が男子を上回っているのが特徴である。3年前の東京都調査には現れなかった傾向であり、2年前の性教育協会調査で初めて「女子の性行動の積極化」として報告されたものである。但し、本調査では、高校生に対する調査実施上の制約が多かったため、横浜地域の高校生全体を表しているとはいえないところがあり、東京都

調査と同様な結果であったとしても高校生一般の性経験傾向であるとするには慎重でなければならない。

②性交経験者に、初交時の動機と避妊の状況について回答してもらった（表17, 18）。初交動機について、男子は「一度経験してみたかった」「相手を愛しているから良いと思った」の2つで約7割を占め、女子では「相手を愛しているから」が6割強である。いっぽう、「断ったら嫌われると思った」「自分の意志に反して強要された」のは男女ともに5%未満であり、性行動において主導権を握るのは男子であり、女子は受け身であるという構図は崩れ始めていると思われる。

初交時の避妊では、「完璧に避妊した」と「避妊したつもりだが自信がない」を合わせると男女ともに約6割であり、東京都調査（1996）でも初交時に避妊したのは男子で56.8%，女子で61.3%である。しかし、避妊をまったく考慮していない者が男子で2割、女子で1割であるということは、高校生を対象とする場合、性に関わる現実的な教育をする必要性が示唆されている。

表17 初交時の動機（高校生の性交経験者、N = 383）

	男子		女子	
一度経験してみたかった	62	33.5%	9	4.5
相手を愛しているから良いと思った	67	36.2	128	64.6
断ったら嫌われると思った	2	1.1	6	3.0
その場の雰囲気では気がついていなかった	40	21.6	42	21.2
自分の意志に反して強要された	5	2.1	9	4.5
無回答	9	4.9	4	2.0
計	185		198	

表18 初交時の避妊状況（高校生の性交経験者、N = 383）

	男子		女子	
完璧に避妊したと思う	79	42.7%	97	49.0%
避妊したつもりだったが自信はない	34	18.4	39	19.7
しなければという気はあったが、まあいいかと思った	24	13.0	32	16.2
全然そんなこと考えられなかった	23	12.4	18	9.1
妊娠なんかするわけないと思っていた	16	8.6	8	4.0
無回答	9	4.9	4	2.0
計	185		198	

③性交観として「高校生がセックスをすること」についての考えを求めたのであるが、無回答が多かった（表19）。無回答を除外すると、全体で7割近くの者が「しても良い」「愛情が深まればしても良い」と回答し、高校生の性交観は中学生のキス観よりもさらに解放的である。特に、無条件で「しても良い」との回答は男子に多く、「愛情が深まれば」と条件をつけて容認するのは女子に多い。男子では心理生理的性衝動との関連が強く、女子

では心理愛情的性衝動との関連が強いことと対応するものと思われる。

表19 高校生の性交観

		すべきでない	愛情が深まってもすべきでない	どちらともいえない	愛情が深まればしてもよい	してもよい	無回答	合計
男子	1年	14 3.2%	23 5.3	78 18.0	88 20.3	125 28.8	106 24.4	434 38.8
	2年	15 4.3	11 3.2	42 12.1	80 23.1	119 34.3	80 23.1	347 31.0
	3年	7 2.1	15 4.4	55 16.3	71 21.0	102 30.2	88 26.0	338 30.2
	合計	36 3.2	49 4.4	175 15.6	239 21.4	346 30.9	274 24.5	1119 100.0
女子	1年	10 3.4	19 6.5	67 22.9	88 30.1	52 17.8	56 19.2	292 36.7
	2年	4 1.7	11 4.6	38 15.8	65 27.1	47 19.6	75 31.3	240 30.2
	3年	8 3.0	15 5.7	42 15.9	72 27.3	72 27.3	55 20.8	264 33.2
	合計	22 2.8	45 5.7	147 18.5	225 28.3	171 21.5	186 23.4	796 100.0

④高校生のキスや性交に対するけじめ感覚の位置を検討するために、中学生で行ったのと同様の手続きで、若者文化への非許容度との対応を調べた（表20）。

男子では、中学生のキス許容度と同じ位置に性交があり、「ピアス」や「髪染め」よりも容認されている。女子では、「ピアス」「髪染め」よりは上位であるが、「ピアス」「髪染め」への抵抗感が男子に比べてほとんどない状態なので、男子と同様に性交を容認しているとみなすことができる。高校生にとっての性交は、中学生のキス容認と同じくらいに、もはや「あたりまえ」の感覚に近くなっているようである。

表20 若者文化およびキス・性交への非許容度：

高校生男子 (N=1119)		高校生女子 (N=796)	
1. シンナー	59.9	1. シンナー	72.1
2. 万引き	39.9	2. 万引き	46.6
3. プルセラ	30.0	3. プルセラ	44.0
4. タバコ	23.0	4. タバコ	28.6
5. テレクラ	18.4	5. 改造バイク	18.1
6. 夜たむろ	18.2	6. テレクラ	18.0
7. 改造バイク	15.3	7. ボンタン	15.2
8. ボンタン	14.8	8. 夜たむろ	10.4
9. ピアス	10.2	性交	8.5
10. 髪染め	8.3	9. 髪染め	0.8
性交	7.6	10. ピアス	0.5

Ⅳ. まとめ

中学生ともなれば、生理的成長と生理的性衝動が高まり、性行動はその衝動によって解発されると前提されることがある。

本研究の分析結果によると、必ずしもそのようなことだけが中学生・高校生の性行動の特徴を示すものとはなっていない。冒頭に述べた中学生のエピソードの背後には、性衝動が明確に自覚できない、あるいは性的衝動そのものが脆弱になっているのではないかという課題が提起されていると思われる。一対一の男女交際がもてず性的に未体験者であっても、性行動への誘因や契機が整えば直ちに経験者となりうる可能性は高いのである。

中学生・高校生にとって最も関心事である性という事象に対する意識や行動を対象とする調査研究は、調査時点においてのみ通用するデータであり、それ以上のものではないのかもしれない。本調査結果も過去のデータとなるまでにそう時日はかからないであろうし、そのくらいに近年の中学生・高校生の性に関わる意識や行動は変動しているのである。

謝辞：本研究は、「よこはま青少年研究会」の成田悦夫、中濱洋子、市来康人、橋本淑美、間部あやの、古屋美幸の諸氏の協力・支援のもとに進めることができ、また、大規模調査の実施に当たり岡田研究室の多くの方々の協力を得ました。さらには、横浜市内の22校の中学校、横浜地域の11校の高等学校、そして、8000名を超える中学生・高校生の協力によって調査を実施することができ、深く感謝の意を表します。なお、本研究は横浜市教育委員会私学振興課の平成7・8年度地域研究補助を受けて行われました。

参考・引用文献

Ausubel, D.P. (1954) "Theory and Problems of Adolescent Development", Grune & Stratton.

福富 護 (1983) "性の発達心理学", 福村出版

泉 ひさ (1987) "現代の性的失業期の諸相と理論—米国の10代の性に関する諸研究を中心とし

て”，青年心理学研究，第1号，25-39.

Koff, E. & Rierdan, J. & Silverstone, E. (1978) “Changes in representation of body-image as a function of menarcheal status”, *Developmental Psychology*, 14, 635-642.

Logan, D.D. & Calder, J.A. & Cohen, B.L. (1980) “Toward a contemporary tradition of menarche”, *Journal of Youth and Adolescence*, 9, 263-269.

中濱 洋子 (1994) “中学生期の性的自己意識の確立に関する研究”，“横浜市教育相談研修報告書”

日本性教育協会 (1994) “青少年の性行動－わが国の中学生・高校生・大学生に関する調査報告 (第4回)”

Rierdan, J. & Koff, E. (1980) “The psychological impact of menarche: integrative versus disruptive changes”, *Journal of Youth and Adolescence*, 9, 49-57.

斉藤 誠一 (1985) “思春期の身体発育と性役割意識の形成について”，*教育心理学研究*, 33, 336-344.

Schofield, M. (1968) “The Sexual Behaviour of Young People”, Longmans Green.

総理府青少年対策本部 (1971) “青少年の性に関する意識”，青少年白書

東京都幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会 (1993) “児童・生徒の性”，学校図書

東京都幼稚園・小・中・高等学校性教育研究会 (1996) “児童・生徒の性”，学校図書

Whisnant, L. & Zegans, L. (1975) “A study of attitudes toward menarche in white middle-class American adolescent girls”, *American Journal of Psychiatry*, 132 (8), 809-814.

横浜市教育委員会性教育研究協議会 (1989) “平成2年度性教育研究協議会活動報告”

付属資料：調査用紙

付属資料 調査用紙

中学生・高校生の性の意識に関する調査

この調査は中学生・高校生の性に関する考え方や行動の仕方について調べるものです。氏名は書かなくて結構です。みなさんの回答はそのままコンピュータを使って処理されますので、プライバシーについての心配はいりません。思った通りに回答して下さい。

はじめに、学年と男女別について、自分に当てはまるものを選んで、その番号を□の中に書き入れてください。

① 学年 1) 中1 2) 中2 3) 中3 4) 高1 5) 高2 6) 高3 ①

② 性別 1) 男 2) 女 ②

あなたの ③身長や ④体重は、学年の中で大きい方ですか、小さい方ですか？自分に当てはまるものを選んで、その番号を□の中に書き入れてください。

- 1) 平均よりもかなり小さい方だと思う
- 2) 平均よりもやや小さい方だと思う
- 3) ちょうど平均くらいだと思う
- 4) 平均よりもやや大きい方だと思う
- 5) 平均よりもかなり大きい方だと思う

③身長は

④体重は

Q1. あなたは交際をしている異性がいいますか？当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) いない
- 2) 異性の友達は何人もいますが、特に交際している人はいない
- 3) 以前は、1対1で交際している異性があったが、今はいない
- 4) 現在、1対1で交際している異性がいる

1) または 2) と答えた人は、Q2に答えて下さい。

3) または 4) と答えた人は、Q2を飛ばして、Q3に進んで下さい。

→Q2. 現在、交際をしていない人に質問します。

Q2-1. あなたは異性と交際したいと思っただけですか？

- 1) ない
- 2) ある

Q2-2.

1) 「ない」と答えた人は、交際したいと 2) 「ある」と答えた人は、交際したいけれどもしないでいいのはなぜですか？

(2つまで選んで下さい)

1. 全く関心がない
2. まだ早いと思っている
3. 今は勉強が大切
4. 他にやりたいことがたくさんある
5. 同性の友達だけで十分
6. 関わりを持つのがめんどうくさい

今勉強が大事だから我慢している

→ Q3-Q7を飛ばして、Q8に進んでください。

→Q3. その異性とどのような交際をしていますか（していませんか）？

あてはまる場合には○、あてはまらない場合には×を□の中に記入してください。

- 1) 登校下校と一緒にする
- 2) 同じ委員会や部活に入る
- 3) 本や文房具、CDなどの貸し借りをする
- 4) いつもその子の写真を持っている
- 5) 音楽・ファミコン・漫画などを一緒に楽しむ
- 6) 一緒に勉強する
- 7) 手紙や日記のやりとりをする

Q6. あなたの交際をあなたの親は知っていますか？
当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) 親には内緒にしている
- 2) 親には知られたくなかったが知られている
- 3) 親に話してある
- 4) 親は知っているかもしれない

Q7. あなたの親はあなたの交際をどの様と考えていると思いますか？
当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) 好ましいと思う
- 2) 心配していると思う
- 3) いいとは思っていないけどあきらめている
- 4) 好ましくないと思っている
- 5) どう考えているのかわからない

Q8. あなたは、ここ1か月の間に、次のような気分を経験したことがありますか？
次の1) から7) について、あなたに当てはまる、線上の番号を○で囲んでください。

- | | |
|------------------|-----------|
| 1) 何かモヤモヤする気分 | 1—2—3—4—5 |
| 2) むらむらする気分 | 1—2—3—4—5 |
| 3) ときどきする気分 | 1—2—3—4—5 |
| 4) やさしくしたい気分 | 1—2—3—4—5 |
| 5) やさしくしてもらいたい気分 | 1—2—3—4—5 |
| 6) エッチな気分 | 1—2—3—4—5 |
| 7) 抱きたい気分 | 1—2—3—4—5 |
| 8) 抱かれた気分 | 1—2—3—4—5 |
| 9) 触れてみたくなる気分 | 1—2—3—4—5 |
| 10) 触れられたい気分 | 1—2—3—4—5 |

Q9. 前の質問で答えてくれたような気分になった時、あなたはもうしましたか？
2つまで選んで番号を□の中に記入してください。

- 1) どうしたらよいかわからなかった
- 2) じっと我慢をした

- 8) 友達をともなうと一緒に遊びに行く
- 9) どちらかの家に行って二人きりでしゃべりをする
- 10) バレンタインデーや誕生日にプレゼントをする
- 11) 電話で話す
- 12) 二人でおしゃべりをする
- 13) 二人だけでデートをする
- 14) ボケベルで連絡を取り合う
- 15) 手をつなぐ
- 16) キスをする

Q4. その異性との交際について、次の1) ~4) について当てはまるものには○、当てはまらないものには×を記入してください。

- 1) 会うと軽い会話で楽しく過ごす事が多い
- 2) 困ったことなどを相談したり、相談に乗ったりする
- 3) お互いの友達や生き方、進路などについてまじめな話をする
- 4) お互いのことをよく理解し合っていると思う

Q5. その異性と交際することによって、あなた自身の生活にどのような影響があったと思いますか？それぞれ自分の気持ちに近いものを2つまで選んで、当てはまる番号を□の中に記入して下さい。

Q5-1. 良かったと思うことはどれですか？

- 1) 毎日が楽しくなった
- 2) 張り合いが出てきた
- 3) 人間的に成長できたと思う
- 4) 勉強やスポーツを前よりも一生懸命やるようになった
- 5) 気持ちの支えができて、心が安定してきた
- 6) 「カレシがない」「カノジョがない」という引け目がなくなった

Q5-2. 気になることはどれですか？

- 1) 異性のことを考えていることが多くなった
- 2) 勉強が手に付かなくなった
- 3) 集中力が落ちた
- 4) 生活のリズムがくずれてきた
- 5) 親とけんかすることが多くなった

Q13. あなたは次のようなことについてどの様に感じ、あるいは考えていますか？

Q13-1. あなたと同じ年頃の人が次のようなことをすることについて、あなたはどうか考えていますか？自分の気持ちにものとも近い、線上の番号に○をつけてください。

	断れない	どちらとも いえない	断る
1) 万引きをする	1—	2—	3—
2) シンナーを吸う	1—	2—	3—
3) タバコをすう	1—	2—	3—
4) 改造バイクに乗る	1—	2—	3—
5) テレクラに電話をかける	1—	2—	3—
6) プルセラシヨップに下着を売る	1—	2—	3—
7) 髪を染める	1—	2—	3—
8) ボンタンなど自立つ服裝をする	1—	2—	3—
9) ピアスをする	1—	2—	3—
10) 夜遅くまで公園やコンビニでたむろする	1—	2—	3—

Q13-2. あなたは次のようなことを自分でも実際にしてみたり、したりしますか？

	やらぬ	断れない	断る
1) 万引きをする	1—	2—	3—
2) シンナーを吸う	1—	2—	3—
3) タバコを吸う	1—	2—	3—
4) 改造バイクに乗る	1—	2—	3—
5) テレクラに電話をかける	1—	2—	3—
6) プルセラシヨップに下着を売る	1—	2—	3—
7) 髪を染める	1—	2—	3—
8) ボンタンなど自立つ服裝をする	1—	2—	3—
9) ピアスをする	1—	2—	3—
10) 夜遅くまで公園やコンビニでたむろする	1—	2—	3—

- 3) 勉強をした
4) 運動をした
5) エッチな本や雑誌を見た
6) ビデオを見た
7) マスターベーションを見た
8) 繁華街に出かけた
9) 電話をした
10) デートをした
11) 異性と抱き合ったりキスしたりした

Q10. あなたは現在、性に関する不安や悩みがありますか？次の中から2つ以内で選んでください。

1) 性器	2) 乳房	3) 性病・	4) マスターベーション
5) 性交・避妊	6) 妊娠・出産	7) 月経	8) 同性愛
9) 男女交際	10) 不安なし		

Q11. あなたは、エッチな場面や話を、どんなものから見たり聞いたりしていますか？次の中から2つ以内で選んでください。

1) 週刊誌・月刊誌	2) マンガ	3) テレビ	4) 映画館
5) ラジオ	6) 電話	7) アダルトビデオ	
8) 駅売りの新聞	9) その他	10) 経験なし	

Q12. あなたは次のようなことについて自分がどれほど正確に知っているかと思っていますか？その程度について、他の人に説明できるほど良くわかっているかどうかで答えてください。

	まったく わかってない	あまり わかってない	どちらとも いえない	かなり わかっている	よく わかっている
1) 異性のからだのしくみ・生理	1—	2—	3—	4—	5—
2) 性交の方法	1—	2—	3—	4—	5—
3) 妊娠と出産	1—	2—	3—	4—	5—
4) 人工妊娠中絶	1—	2—	3—	4—	5—
5) エイズやほかの性感染症の予防	1—	2—	3—	4—	5—

Q15. 次の1)～35)までの、それぞれの考え方や意見について、あなたはどうか考えますか？ 1. 非常に賛成 2. 賛成 3. 賛成とも反対ともいえない 4. 反対 5. 非常に反対のうから一つ選んで、線上の番号に○をつけてください。

- | | 非常に
賛成 | 賛成 | 賛成とも
反対とも
いえない | 反対 | 非常に
反対 |
|----------------------------------|-----------|----|----------------------|----|-----------|
| 1) 目上の人に対してはきちんと敬語を使うことが大切だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 自分たちの力で学校をよくしたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 女の子は素直でかわいいのが一番だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 一番関心のあることは遊ぶことだ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 将来のことを考えるより今の学校生活を楽しく過ごすのが一番だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 生徒会長は女子よりも男子の方がふさわしい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 学校の行事や活動はしっかりやらなくてはいいけない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 努力して社会をよりよくしたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 礼儀を大切に生きていきたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 女性には家事や育児に専念する方がいい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 生徒会などは好きな人にやらせておけばよい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 男は男らしく女は女らしくが一番だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) みんなとの会話のノリについていいけないのはよくない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14) これからは男でも料理ができなければいいけない | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15) 服装はいつもキメていたい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16) 人とつきあうのはめんどくさい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17) 人の世話をしたり面倒を見たりするのは大切だ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

Q14. 次の23のことはお並んでいきます。それぞれのことはあなたにどの程度当てはまりますか？ または、どの程度当てはまりませんか？ 線上の番号を○で囲んでください。

- | | 非常に
当てはまる | 当てはまる | いまい | 当てはまる | 非常に
当てはまる |
|------------------|--------------|-------|-----|-------|--------------|
| 1) 行動力がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) リーダーシップのとれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) やさしい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) 人をまとめる力がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 決断力がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 親切な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) はっきりとした態度のとれる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 自己主張のできる | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 思いやりがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 積極的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 頼りがいがある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 12) 人に気を使う | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 13) 判断力がある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 14) 意志が強い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 15) すなおな | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 16) 力強い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 17) たくましい | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 18) 純粋な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 19) 勇敢な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 20) 精神的に強い | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 21) 人に尽くす | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 22) 冒険心のある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 23) やる気のある | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 24) 男性的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 25) 女性的な | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

(中学生用)

Q16. あなたは異性とキスしてみたいと思ったことがありますか? 当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) ある
2) ない

Q17. あなたは異性(家族以外の人)とキスしたことがありますか? 当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) ある
2) ない

Q18. あなたは中学生がキスをするについてどう思いますか? 当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) すべきでない
2) 愛情が深まってでもできるだけしない方がよい
3) どちらともいえない
4) 愛情が深まればしてもよい
5) してもよい

Q19. あなたは中学生が性交(セックス)をするについてどう思いますか? 当てはまる番号を□の中に記入してください。

- 1) すべきでない
2) 愛情が深まってでもできるだけしない方がよい
3) どちらともいえない
4) 愛情が深まればしてもよい
5) してもよい

これで終わりです。

回答していないところがないかどうか確認してください。

どうもありがとうございました。

	非常に 賛成	どちらとも いえない	非常に 反対
18) 家庭内の仕事は男女平等に分担するのが あたりまえだ	1—2—3—4—5		
19) ボランティア活動に関心を持つのは 大切なことだ	1—2—3—4—5		
20) 放課後や休み時間は一人でいる方が 気が楽だ	1—2—3—4—5		
21) まじめな話をするのはダサい	1—2—3—4—5		
22) 中学・高校で男子も家庭科を学ぶのは 良いことだ	1—2—3—4—5		
23) 結婚できない校則は話し合 いで変えたほうがよい	1—2—3—4—5		
24) 政治や社会問題に無関心でいるのは よくない	1—2—3—4—5		
25) 先輩と後輩のけじめはしっかり つけたほうがよい	1—2—3—4—5		

(高校生用)

Q16. あなたは異性とキスをした経験がありますか? 「ある」という人は初めて経験したのがいつのことを答えてください。

- 1) ある
2) ない

*小・中・高 () 年の時

Q17. あなたは異性とベッチングをした経験がありますか? 「ある」と答えた人は初めて経験したのがいつのことを答えてください。

- 1) ある
2) ない

*小・中・高 () 年の時

Q18. あなたは性交 (セックス) を経験したことがありますか? 「ある」という人は初めて経験したのがいつのことを答えてください。

- 1) ある
2) ない

*小・中・高 () 年の時

→ 2) と答えた人はQ19. に進んでください。

Q18. で1) と答えた人のみ回答してください。

Q19. 初めての性交にいたった動機はどんなものでしたか? もっとも近いものをひとつだけ選んでください。

- 1) 一度経験してみたかった
2) 相手を愛しているからいいと思った
3) 断ったら嫌われると思った
4) その場の雰囲気や気がついたらしていた
5) 自分の意志に反して強要された

Q20. 初めての性交の時避妊しましたか?

- 1) 完璧に避妊したと思う
2) 避妊したつもりだったが自信はない
3) しなければという気はあったが、まあいいかと思った
4) 全然そんなこと考えられなかった
5) 妊娠なんかするわけがないと思っていた

Q21. あなたは高校生がセックスをする事についてどう思いますか?

- 1) すべきでない
2) 愛情が深まってもできないだけではない方がよい
3) どちらともいえない
4) 愛情が深まればしてもよい
5) してもよい

質問はこれで終わります。どうもありがとうございました。